

保健・医療分野における
第一波から第八波までの新型コロナウイルス感染症への対応
－ 主な取組みと課題（概要） －

大阪府の保健・医療分野における新型コロナウイルス感染症の対応（第一波～第八波）

5/8
5類感染症へ移行

感染の波の主な特徴

| | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|--|---|
| <p>【第一波(R2.1.29～6.13)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 未知の感染症への脅威 ■ 人との接触削減（7～8割）の徹底 <p>★ 1度目の緊急事態措置</p> | <p>【第二波(R2.6.14～10.9)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 夜の街での感染拡大 ■ 感染拡大抑制と社会経済活動との両立（感染リスクの高い「場」への対策） | <p>【第三波(R2.10.10～R3.2.28)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 秋・年末年始の感染拡大 ■ 検査需要への対応 ■ 院内・施設クラスター増加 <p>★ 2度目の緊急事態措置 ★ 1度目の医療非常事態宣言</p> | <p>【第四波(R3.3.1～6.20)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アルファ株による感染拡大 ■ 重症者の急増 <p>★ 1度目のまん延防止等重点措置 ★ 3度目の緊急事態措置 ★ 2度目の医療非常事態宣言</p> | <p>【第五波(R3.6.21～12.16)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デルタ株による感染急拡大 ■ ワクチンと早期治療の推進 ■ 50代以下の重症者の増加 <p>★ 2度目のまん延防止等重点措置 ★ 4度目の緊急事態措置</p> | <p>【第六波(R3.12.17～R4.6.24)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オミクロン株による大規模感染 ■ 院内・施設クラスター急増 ■ 高齢者の死亡例多数確認 ■ 経口治療薬の普及 <p>★ 3度目のまん延防止等重点措置 ★ 3度目の医療非常事態宣言</p> | <p>【第七波(R4.6.25～9.26)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オミクロン株による大規模感染 ■ 院内・施設クラスター急増 ■ 行動制限を最小限に抑えた感染拡大の抑制 <p>★ 4度目の医療非常事態宣言</p> | <p>【第八波(R4.9.27～R5.5.8)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 全数届出見直し(R4.9.26) ■ 医療機関、高齢者施設等、府民が各自「備え」「対策」を実施 ■ 自己検査の普及 ■ 季節性インフル同時流行 |
|---|--|---|--|---|---|--|---|

検査体制・病床の確保

災害級非常事態に向けた医療確保

医療へのアクセス確保・オール医療体制づくり

Withコロナ体制への転換

ワクチン接種の推進

自宅療養者への支援強化

高齢患者への支援強化

感染対策

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 本部会議設置など初動体制の整備 ● 緊急事態措置による外出自粛・休業（校）要請 | <ul style="list-style-type: none"> ● 夜の街対策 ● 感染リスクの高い「場」への対策（地域・対象を絞った対策） | <ul style="list-style-type: none"> ● 秋の感染拡大に対する飲食店等への時短要請 ● 年末年始の感染拡大に対する緊急事態措置 | <ul style="list-style-type: none"> ● 緊急事態措置（大規模商業施設等への休業要請） ● 感染に強い飲食の場づくり | <ul style="list-style-type: none"> ● まん防・緊急事態措置適用 | <ul style="list-style-type: none"> ● まん防適用 | <ul style="list-style-type: none"> ● 重症化リスクのある方への重点化・高齢者等のみ対象とした外出自粛や高齢者施設の面会自粛の要請 | <ul style="list-style-type: none"> ● 府民による「備え」と「対策」の働きかけ ● 季節性インフルエンザ同時流行への備え |
|--|---|---|--|--|---|---|---|

検査体制

| | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 帰国者・接触者外来での検体採取と地衛研等での検査体制の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● 検査場の設置や保健所を介さず診療所から直接受診調整可能な仕組みの構築 ● 医療機関での検査体制整備支援 | <ul style="list-style-type: none"> ● 検査体制整備計画策定（以降、随時改定） ● 診療・検査医療機関指定 ● 高齢者施設等の定期検査体制整備 ● 変異株スクリーニング検査導入 | <ul style="list-style-type: none"> ● 変異株スクリーニング検査体制の強化 ● ゲノム解析体制の構築 ● 高齢者施設検査体制強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 変異株スクリーニング検査体制の強化 ● 抗原定性検査キットの配付 | <ul style="list-style-type: none"> ● 無料検査開始 ● 診療・検査医療機関の公表 ● 高齢者施設等の定期検査体制強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 診療・検査医療機関の拡充 ● 支援金制度による日曜・祝日開設医療機関の拡充 ● 若年軽症者向け無料検査センター開設や薬局での抗原定性検査キット配布（発熱外来ひっ迫時） | <ul style="list-style-type: none"> ● 検査キット配布センターの設置 ● 診療・検査医療機関に新たな指定区分（準A型）創設 ● 臨時発熱外来の整備 ● 小児への検査キット無償配布 |
|---|--|---|--|---|---|---|--|

保健所業務等

| | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 患者情報一元化 ● 帰国者・接触者相談センター設置、診断まで対応 ● 積極的疫学調査の徹底 ● クラスター対策（医療機関） | <ul style="list-style-type: none"> ● 濃厚接触者・検疫フォローアップセンター設置による保健所支援 ● 外部人材等配置（以降継続） ● クラスター対策の強化（医療機関、高齢者施設等） | <ul style="list-style-type: none"> ● 保健所業務の重点化・一元化等 ● 検査調整センター設置 ● 疫学調査の重点化や重症化リスクの低い陽性者の健康観察受動化 ● 全所体制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保健所業務の重点化・一元化等 ● 休日・夜間における症状憎悪時の相談・往診体制の整備 ● 外部人材の養成と配置 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療提供体制確保計画策定 ● 保健所業務の重点化・一元化等 ● 感染規模に応じた業務重点化 ● 訪問看護による健康観察体制整備 ● 自宅待機SOSの運営 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保健所業務の重点化・一元化等 ● ファーストタッチ対象者等重点化 ● 診療・検査医療機関での患者対応やHER-SYS入力促進 ● 事務処理、配食・パルスセンター設置 ● 高齢者施設対策の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保健所業務の重点化 ● ファーストタッチ対象者等重点化 ● 診療・検査医療機関のHER-SYS入力促進 ● 事務処理センターの体制拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ● 発生届出対象者を4類型に限定（全数届出見直し） ● ファーストタッチ対象者の重点化 ● 発生届出対象外患者に対する「プッシュ型」から「プル型」（患者からのアプローチ）への転換 |
|--|---|---|---|---|---|--|---|

医療養体制

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 感染症指定医療機関以外での病床確保、設備等支援 ● 帰国者・接触者外来拡充 ● 府への入院調整一元化 ● 自宅・宿泊療養開始 ● 専門病院の運営 ● トリアージ病棟の指定 | <ul style="list-style-type: none"> ● 病床・宿泊療養施設確保計画策定（以降、随時見直し） ● 病床確保要請 ● 医療機関への支援強化 ● 宿泊療養施設の拡充（以降、継続して実施） | <ul style="list-style-type: none"> ● 入院・療養対象の明確化 ● 病床確保要請（重症中心） ● 大阪コロナ重症センター運用開始 ● 自宅・宿泊療養体制の強化 ● 転退院促進 | <ul style="list-style-type: none"> ● 病床確保に向けた緊急要請等 ● 軽症中等症病床での重症患者治療継続 ● 治療サポートチーム設置 ● 看護師派遣人材バンク運用開始 ● 入院患者待機ステーション設置 ● 転退院支援強化 ● 宿泊・自宅療養体制の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 入院対象の重点化 ● 医療機能分化の推進、災害級非常事態に備えた病床確保 ● 重症センター、専門病院の運営 ● 転退院支援強化 ● 医療機関への更なる支援強化 ● 宿泊・自宅療養体制の強化 ● 診療型宿泊療養施設の運用開始 | <ul style="list-style-type: none"> ● 入院対象の重点化 ● フェーズ5の病床数以上の受入要請 ● 大規模医療・療養センターの運営 ● 病病連携による入院調整 ● 転退院支援強化 ● 宿泊・自宅療養体制の強化 ● 高齢者施設治療支援体制強化 ● 自院患者の治療継続要請 | <ul style="list-style-type: none"> ● 入院対象の重点化 ● 緊急避難的確保病床や高齢者リハビリ・ケア病床の運用 ● 自院での病床備えの働きかけ ● 高齢者医療介護臨時センター運用 ● 夜間・休日専用オンライン診療受付センターの設置等自宅療養体制強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 重症病床に代わる軽症中等症病床の確保 ● 病病連携による入院調整の更なる推進 ● 診療型宿泊療養施設に介護支援等機能付加 ● 陽性者登録センターの設置を通じた自宅療養者への支援継続 ● 大阪コロナオンライン診療・往診センターの運用開始 |
|--|---|---|--|---|---|---|---|

物資

● 医療機関等へ備蓄物資供給

ワクチン

● ワクチン接種推進体制の整備
● 医療従事者等優先接種及び初回接種の推進
● 追加接種の推進（3回目・4回目・令和四年秋開始接種）

※第七波は、全数届出がなされていた9月25日までの、第八波は、感染症法上の位置づけ変更前の5月7日までの新規陽性者数を公表した日までとする

【大阪府の波ごとの主な保健・医療分野における取組み】

| | 第一波(R2.1.29~6.13) | 第二波(R2.6.14~10.9) | 第三波(R2.10.10~R3.2.28) |
|--------|---|---|---|
| 感染対策 | <ul style="list-style-type: none"> ● 患者情報一元化 ● 対策本会議の設置 ● 府民の行動変容の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪モデルに基づく感染・療養状況のモニタリング・見える化 ● ライプハウスクラスターや夜の街クラスターの公表による府民への注意喚起 ● 3月下旬以降の外出自粛の働きかけ等の府独自の取組み ● 緊急事態措置 ● 国の水際対策に基づく検疫フォローアップの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ● 夜の街での感染拡大防止に向けた府民への注意喚起 ● 夜の街関係者等への受診勧奨、集団検査、ミナミ検査場の設置 ● ミナミの一部地区における接待を伴う飲食店及び酒類の提供を行う飲食店への休業要請又は時短要請 ● 感染防止宣言ステッカーの導入 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「感染リスクの高い5つの場面」を踏まえ、焦点を絞った取組み【10月~12月の感染拡大】 ● 飲食店等への時短要請を実施【年末年始からの感染拡大】 ● 緊急事態措置 |
| 検査体制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 帰国者・接触者外来を二次医療圏に1か所以上設置 ● 民間検査機関への検査委託を開始 ● ドライブスルー方式での検体採取場の設置 ● 保健所での検査体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● 夜の街関係者等への受診勧奨、集団検査、ミナミ検査場の設置（再掲） ● 診療所等が保健所を経由せず、受診調整できる受診調整機能付地域外来・検査センター設置促進やドライブスルー方式等の検体採取体制の拡充 ● 検査機器整備支援による医療機関での検査体制の拡充 ● 妊婦の分娩前検査等の開始 | <ul style="list-style-type: none"> ● 検査体制整備計画策定 ● 診療・検査医療機関（かかりつけ医等）の指定 ● 高齢者施設等における全数検査、フォローアップ検査、集中的な定期検査、新規入所時の検査 ● 高齢者施設「スマホ検査センター」の設置 ● 各保健所に検査調整センターを設置し、受検調整を実施 ● 変異株スクリーニング検査を開始 ● 行政検査予約・結果通知管理システム稼働 |
| 保健所業務等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 府民向け、外国人向け相談窓口 ● 帰国者・接触者相談センター（後の新型コロナ受診相談センター）医療機関向け相談窓口の設置 ● 帰国者・接触者相談センターの外部委託 ● kintoneを活用した府独自の「新型コロナウイルス対応状況管理システム」の構築（患者情報や健康観察データの一元管理） ● 診断までのプロセスに対応 ● 積極的疫学調査の徹底による早期発見・対応、医療機関クラスターへの対応 | <ul style="list-style-type: none"> ● 濃厚接触者・検疫フォローアップセンター設置に伴う保健所支援 ● 一部業務への外部人材等の配置に伴う保健所支援 ● 医療機関関連クラスター対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・検査機器整備支援による医療機関での検査体制の拡充（再掲） ・研修、クラスター発生時の支援チーム派遣、早期スクリーニング検査等 ● 施設クラスター対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスター発生時の支援チーム派遣 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保健所業務の重点化・効率化や本庁への業務の一元化 <ul style="list-style-type: none"> ・kintoneを廃止、HER-SYS・G-MISでの情報管理 ・検査調整センターの設置 ・疫学調査の重点化や重症化リスクの低い患者等の健康観察の受動化（所長判断） ・全所体制の構築や派遣職員による積極的疫学調査・陽性者の健康観察 ● 高齢者施設クラスター発生・拡大防止対策 |
| 医療療養体制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 帰国者・接触者外来協力医療機関等への病床確保の要請 ● 公的医療機関を中心とした病床確保の要請 ● 支援チームによる物資・設備支援や休業補償等の支援 ● 病床の可変的運用（5月~） ● 入院フォローアップセンター設置による入院調整の府への一元化 ● 宿泊・自宅療養の開始 ● コロナ専門2病院の運営開始 ● 救急要請患者対応のためのトリアージ病院の指定 ● 助け合い基金の設置、特殊勤務手当補助金の交付、医療従事者向け宿泊施設の紹介による医療従事者の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ● 病床・宿泊療養施設確保計画策定 <ul style="list-style-type: none"> ・病床確保要請 ・フェーズに応じた病床運用 ・拠点病院、緊急時支援病院への機能分化 ● 医療機関に対する支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・空床補償や設備整備補助、医療用物資の備蓄等の整備支援 ・府看護協会と連携した重症患者への対応が可能な人材育成研修の実施 ・慰労金や助け合い基金等による医療従事者の支援 ● 精神科トリアージ病院の設定 ● 宿泊療養施設の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ● 省令改正を受け、「入院・療養に係る考え方」を公表 ● 病床確保要請、重症病床確保に向けた臨時緊急要請、新規病床確保協力金や透析治療対応補助金などの支援制度を創設 ● 大阪コロナ重症センター運用 ● 転院支援チームを設置し、退院基準を満たした患者を受け入れる後方支援病院を確保（支援制度創設）、転退院を促進 ● 宿泊療養施設の拡充、宿泊療養者の健康観察体制強化（パルスオキシメーター全員貸出、ウェアラブルデバイスの配置） ● 自宅療養者支援（配食やパルスオキシメーター貸出（一部）） ● 医療機関向けの治療法・院内感染対策のセミナー開催 |
| 物資 | <ul style="list-style-type: none"> ● 医療機関に対し、新型インフルエンザ等対策用個人防護具（PPE）を供給 ● 福祉施設・事業者に対し、エタノール等を配布 | <ul style="list-style-type: none"> ● 院内感染対策として、医療物資を確保・支援 | <ul style="list-style-type: none"> ● 左記継続 |
| ワクチン | <ul style="list-style-type: none"> ● 予防ワクチン・治療薬等の研究開発に係る連携協定締結 | — | <ul style="list-style-type: none"> ● 「医療従事者接種・大阪モデル」として、他都道府県に先駆け、ワクチン配送センターの設置及びLINE予約システムの導入 ● 集団接種会場訓練の実施 |

【大阪府の波ごとの主な保健・医療分野における取組み】

※物資は、第二波以降の取組みを継続

| | 第四波(R3.3.1～6.20) | 第五波(R3.6.21～12.16) |
|--------|--|--|
| 感染対策 | <ul style="list-style-type: none"> ●飲食店等への時短要請 ●まん延防止等重点措置 ●緊急事態措置 ●感染に強い飲食の場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールドステッカー認証制度による飲食店の環境整備 ・4人以下のマスク会食の徹底 ・飲食店スマホ検査センターの設置 | <ul style="list-style-type: none"> ●まん延防止等重点措置 ●緊急事態措置 |
| 検査体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●検査体制整備計画改定 ●国と連携し、モニタリング検査開始 ●飲食店スマホ検査センターの設置（再掲） ●変異株スクリーニング検査体制の強化 ●府におけるゲノム解析体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ●検査体制整備計画改定 ●抗原定性検査キット配布事業 ●ゲノム解析・変異株スクリーニング検査体制の強化 |
| 保健所体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健所業務の重点化・一元化 <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者による休日・夜間における症状増悪時の相談・往診体制の整備 ・外部派遣職員の保健所内OJT養成、感染拡大期等に保健所に機動配置 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健・医療提供体制確保計画策定 ●保健所業務の重点化・一元化 <ul style="list-style-type: none"> ・感染規模に応じた保健所業務の段階的な重点化 ・訪問看護ステーションと連携した健康観察体制の整備 ・大阪府療養者情報システム（O-CIS）の運用による宿泊・搬送調整 ・自宅待機SOSの運営開始 |
| 医療療養体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●COVID-19病院連絡会の開催 ●病床確保に係る臨時緊急要請（特措法、感染症法）、一般医療を一部制限した病床運用の要請（特措法） ●重症患者の軽症中等症病床での治療継続要請 ●大阪コロナ重症センター運用のための国等への看護師派遣要請 看護師派遣の人材バンク運用 ●入院患者待機ステーション設置 ●大阪府新型コロナウイルス治療サポートチームの設置 ●転院・退院支援の強化（後方支援医療機関の確保・支援） ●宿泊療養の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊療養施設の拡充 ・各ホテルへの酸素投与室3室の設置 ・宿泊療養施設拠点ホテルに医師が24時間常駐し、オンライン診療、往診可能な体制を整備 ●自宅療養支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン診療の拡充 ・民間事業者による休日・夜間における症状増悪時の相談・往診体制の整備（再掲） ・自宅療養者等往診等実施協力金制度の創設 ・パルスオキシメーターの全員配付や配食サービスの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健・医療提供体制確保計画策定（再掲） ●「感染拡大期の入院・療養の考え方」を見直し（入院対象を重点化） ●医療機能分化(中等症・重症一体型病院整備)の推進や災害級非常事態に備えた病床確保 ●大阪コロナ重症センター（2病院）やコロナ専門病院（1病院）の追加整備 ●転退院サポートセンター設置による転退院の促進 ●宿泊療養の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊療養施設の拡充 ・療養者情報システムの運用による宿泊・搬送調整（再掲）、宿泊・搬送調整の迅速化 ・AEDの設置 ・抗体治療体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ホテル抗体カクテルセンター（後に診療型宿泊療養施設に変更）の設置 宿泊療養施設連携型病院による往診での抗体カクテル療法の実施 ●診療型宿泊療養施設の設置・拡充 ●病院への搬送体制確保、オンライン診療センター設置 ●大阪市民向け宿泊療養予約緊急コールセンターの設置 ●自宅療養者の治療体制の充実・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・抗体治療医療機関の整備、外来診療病院、搬送体制の整備 ・地域における往診チーム体制の整備やかかりつけ医によるオンライン診療体制の充実 ・訪問看護ステーションと連携した健康観察体制の整備（再掲） ・パルスオキシメーターの全員配布や配食サービスの実施、自宅療養者支援サイトの運営開始 ●自宅待機SOSの運営開始（再掲） ●大阪コロナ大規模医療・療養センターの整備 ●入院患者待機ステーションの再開 |
| ワクチン | <ul style="list-style-type: none"> ●ワクチン供給量の十分な確保と迅速なスケジュールの提示等を国へ要望 ●府による医療従事者等向けの接種会場の設置、他院接種可能な医療機関の確保 ●接種可能な看護師の斡旋を実施 ●府の大規模接種会場の設置、職域サポートチームの設置 ●副反応等にかかる専門相談窓口の設置、副反応を疑う症状に対する診療体制の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ●ワクチン供給量や長期的なスケジュールの提示等を国へ要望 ●府の大規模接種会場を2か所追加 ●若年層のワクチン接種推進キャンペーンの実施 ●職域接種の開始、職域接種体制整備支援補助金受付開始 ●個別接種促進協力金の受付開始 |

【大阪府の波ごとの主な保健・医療分野における取組み】

※物質は、第二波以降の取組みを継続

第六波

(R3.12.17～R4.3月中旬)

(R4.3月中旬～6.24)

| | | |
|--------|---|---|
| 感染対策 | <ul style="list-style-type: none"> ●ワクチン・検査パッケージ制度の運用 ●まん延防止等重点措置 | <ul style="list-style-type: none"> ●年度替わりの集中警戒期間における飲食店等への利用時間制限等の要請 |
| 検査体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●変異株スクリーニング検査体制の強化 ●無料検査開始 ●一般の無症状者の濃厚接触者は検査なし ●診療・検査医療機関の公表 ●抗原定性検査キットの配布 | <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者施設等（入所系・居住系）従事者等への頻回検査 ●検査体制整備計画改定 ●診療・検査医療機関の拡充 ●支援金制度による日曜・祝日開設医療機関の拡充 |
| 保健所体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健所業務の重点化・一元化 ・ファーストタッチ対象者等や国方針に基づく濃厚接触者待機期間見直し ●高齢者施設における医療支援の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健所業務の重点化・一元化等 ・診療・検査医療機関による健康観察やHER-SYS入力促進 ・府管保健所に事務処理センターや配食・パルスセンターを設置 |
| 医療療養体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●「入院・療養の考え方」を見直し（入院対象を重点化） ●休止病床の活用等によるフェーズ5の病床数以上の受入要請、一体型病院②への他院からの重症患者や中等症Ⅱ患者の受入要請 透析、周産期医療機関等あて無症状・軽症患者の自院での治療継続要請 疾患別病床確保要請 ●自院入院患者が陽性と判明した場合の原疾患とあわせたコロナ治療継続（受入医療機関については、原則、確保病床外で対応）要請 ●宿泊転送班設置による転退院促進 ●大規模医療・療養センター運営開始 ●宿泊療養の強化 ・宿泊療養施設の拡充 ・診療型宿泊療養施設の拡充 ・臨時の医療施設「スマイル」の運営 ・高齢者用宿泊療養施設（24時間診療対応可能）として2施設を位置づけ ・発生届未確認の宿泊療養希望者の宿泊調整機能「大阪府コールセンター」設置・専用施設への入所開始 ・民間事業者による宿泊療養施設への夜間・休日往診体制整備 ●自宅療養支援の強化 ・治療・療養メニューの府ホームページへの掲載、自宅待機SOSの体制強化 ●高齢者施設対応 ・保健所による対応の重点化、往診体制強化、OCRT（高齢者施設等クラスター対応強化チーム）の設置 ・高齢者施設等の往診専用ダイヤル、協力金制度創設等 ●入院患者待機ステーションを臨時の医療施設として運用 | <ul style="list-style-type: none"> ●大阪府療養者情報システムを活用した、圏域単位・病病連携に軸足を置いた入院調整 ●「オール医療」体制構築 ・自宅療養者への治療体制の充実（健康観察や外来・往診等） ・緊急避難的確保病床の確保要請等 ・確保病床を有しない病院を含め、自院患者コロナ陽性病床の備えについて働きかけ ・確保病床を有しない病院での自院患者治療継続等を目的とした、地域の感染対策ネットワークの強化推進 ・要介護高齢者の入院・療養体制の更なる整備（高齢者医療介護臨時センター設置、高齢者リハビリ・ケア（専門職配置）病床確保）高齢者施設等への医療支援強化 |
| ワクチン | <ul style="list-style-type: none"> ●大阪府1・2回目接種センターの設置 ●追加接種（3回目）に対応する府の大規模接種会場を6か所設置 ●職域追加接種の開始 | <ul style="list-style-type: none"> ●集中取組期間を設定し若年層への3回目接種を促進 ●4回目接種対象者の拡充を国へ要望 ●新たなワクチンの府の接種体制を構築（ノバボックス） ●巡回接種チームの設置等高齢者施設等での4回目接種を促進 |

【大阪府の波ごとの主な保健・医療分野における取組み】

※物資は、第二波以降の取組みを継続

| | 第七波(R4.6.25～9.26) | 第八波(R4.9.27～R5.5.8) ※5類感染症への位置づけ変更等に係る取組みを除いて記載 |
|--------|--|---|
| 感染対策 | <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者等、重症化リスクのある方への対策の重点化 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等は外出を控えること、高齢者施設の面会自粛 | <ul style="list-style-type: none"> ●府民による「備え」と「対策」の働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・発生届出対象外患者の有症状時の自己検査の推奨 ・平時からの薬や検査キット等の備蓄 ●発熱外来ひっ迫時における受診対象の重点化等の方針の提示 ●新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザ同時流行への備え（インフルエンザ疑い患者への相談・電話オンライン診療体制の充実） |
| 検査体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者施設等（入所系・居住系）従事者等への頻回検査 ●診療・検査医療機関の拡充 ●支援金制度による日曜・祝日開設医療機関の拡充 ●若年軽症者向け無料検査センター開設や薬局での抗原定性検査キット配布（発熱外来ひっ迫時） | <ul style="list-style-type: none"> ●検査キット配布センターの設置 ●診療・検査医療機関新たな指定区分の創設（準A型） ●臨時発熱外来の整備（市町村、大阪府医師会への要請・医療機関への支援） ●小児の発症時の受診前セルフ検査推奨と検査キット無償配布 ●支援金制度による感染拡大期における平日開設医療機関の拡充 ●年末年始の検査体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル駅に臨時の無料検査所を設置 ・支援金・協力金制度による日曜・祝日・年末年始開設医療機関の拡充 |
| 保健所体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●保健所業務の重点化 <ul style="list-style-type: none"> ・ファーストタッチ対象者等の重点化 ・診療・検査医療機関による健康観察やHER-SYS入力促進 ・府管保健所に事務処理センターの体制拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ●発生届出対象者を4類型に限定（全数届出見直し） ●ファーストタッチ対象者等の重点化 ●発生届出対象外患者に対する「プッシュ型」から「プル型」（患者からのアプローチ）への転換 |
| 医療療養体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●「入院・療養の考え方」を見直し（入院対象を重点化） ●緊急避難的確保病床の運用等要請 ●小児患者の受入体制の確保要請 等 ●宿泊療養の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪コロナ高齢者医療介護臨時センターの運用 ・宿泊療養の優先運用の徹底（重症化リスクのある者等からの入所） ●自宅療養支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間・休日専用オンライン診療受付センターの運用 ●高齢者施設対応（検査体制は前述） <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設におけるコロナ治療対応協力医療機関の確保 施設の対応訓練の実施 重症化予防治療促進 感染対策助言等の実施継続 等 <p>「医療非常事態における緊急取組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日曜・祝日開設医療機関の拡充等 ・若年軽症者オンライン診療スキームの構築・運用 ・夜間・休日専用オンライン診療受付センターの運用（再掲） ・保健所のファーストタッチの重点化 ・入院患者待機ステーションを臨時の医療施設として再開 | <ul style="list-style-type: none"> ●重症病床・軽症中等症病床のバランスを踏まえたさらなる軽症中等症病床の確保 ●大阪府療養者情報システム（O-CIS）を活用した圏域調整の更なる推進 ●分娩支援協力金による妊婦患者受入体制強化 ●宿泊療養施設の確保 <ul style="list-style-type: none"> （高齢者やハイリスク者に特化、家庭内感染防止等のための受入れ） 診療型宿泊療養施設に介護支援付加型・生活機能維持型へと新たな機能を付加 ●自宅療養支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府陽性者登録センターの設置とセンター登録に基づく支援継続 ・大阪府コロナオンライン診療・往診センターの運用開始 ●救急ひっ迫に備えた搬送体制（入院患者待機ステーションやトリアージ病院等）の整備 ●緊急時における小児地域医療センターを介した圏域内での入院調整 |
| ワクチン | <ul style="list-style-type: none"> ●4回目接種間隔の柔軟な運用方針の検討を国へ要望 ●小児接種の努力義務適用を踏まえた広報・啓発の強化 ●新たなワクチンの府の接種体制を構築（オミクロン株対応ワクチンBA.1） | <ul style="list-style-type: none"> ●新たなワクチンの府の接種体制を構築（オミクロン株対応ワクチンBA.4-5） ●小児・乳幼児接種の広報・啓発 |

大阪府における保健・医療分野における新型コロナウイルス感染症への対応上の課題

| | 第一波(R2.1.29～6.13) | 第二波(R2.6.14～10.9) | 第三波(R2.10.10～R3.2.28) | 第四波(R3.3.1～6.20) | 第五波(R3.6.21～12.16) | 第六波(R3.12.17～R4.6.24) | 第七波(R4.6.25～9.26) |
|--------|--|--|---|--|---|--|--|
| 検査体制 | <ul style="list-style-type: none"> ◆診断までのプロセスに目詰まり ◆検体採取能力の確保：帰国者・接触者外来に限定採取資材の不足 ◆検査分析能力の確保：検査主体・手法が限定（地衛研・PCR検査等）、医療機関等における検査機器人材（検査技師）検査試薬の不足 | <ul style="list-style-type: none"> ◆検査対象者拡充への対応（無症状の濃厚接触者への検査、分娩前検査等） | <ul style="list-style-type: none"> ◆季節性インフルエンザ流行期に備えた検査体制（診療・検査医療機関指定）の整備 ◆アルファ株出現に伴う変異株スクリーニング検査体制整備 ◆高齢者施設等でのクラスター発生防止に向けた検査体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> ◆更なる診療・検査体制の拡充 ◆新たな変異株スクリーニング検査体制整備 ◆府におけるゲノム解析体制の構築（従来は国において実施） | <ul style="list-style-type: none"> ◆ゲノム解析継続に向けた体制維持 ◆検査機会の拡大（抗原簡易キット配布、診療・検査医療機関での公表促進等による検査へのアクセス強化）への対応 ◆変異株スクリーニング検査体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> ◆医療機関名公表済の診療・検査医療機関への患者集中による外来ひっ迫 ◆検査試薬や検査キットの不足 ◆検査体制の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日体制の強化 ・検査実施機関の増加 ・抗原定性検査キットの備蓄 ◆高齢者施設等でのクラスター多発による検査体制強化 ◆無料検査事業の検査拠点確保 | <ul style="list-style-type: none"> ◆患者急増に伴う発熱外来のひっ迫 ・診療・検査医療機関指定数の拡充（特に日曜日体制の強化） ・検査実施機関の増加 ・抗原定性検査キットの備蓄 ◆小児の発熱患者の診療・検査医療機関の不足 |
| 保健所体制 | <ul style="list-style-type: none"> ◆診断までのプロセス対応等で保健所業務がひっ迫 ◆業務のシステム化の遅れ（患者情報・健康観察システム等） ◆感染症対応に経験のある保健師等の人材不足 | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染拡大や濃厚接触者・検疫対応に伴う保健所業務のひっ迫 | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染拡大に伴う保健所業務のひっ迫 | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染拡大に伴う保健所業務のひっ迫と一部保健所でのファーストタッチの遅れ ◆業務ひっ迫改善に向けた保健所ごとの取組み（全所体制等）の差 | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染拡大に伴う保健所業務のひっ迫と一部保健所でのファーストタッチの遅れ ◆感染規模に応じた業務の段階的な重点化の仕組みづくり | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染拡大に伴う保健所業務のひっ迫と一部保健所での発生届（FAXの代行入力）の処理やファーストタッチ、療養決定の遅延 ◆地域の拠点医療機関と保健所との連携による地域差（施設対応等） | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染急拡大とクラスターの多発に伴う保健所業務のひっ迫 ◆積極的疫学調査の重点化に伴い、感染発生の契機等の把握が困難 |
| クラスター | <ul style="list-style-type: none"> ◆医療機関クラスター複数発生院内感染対策のノウハウ共有不足 ◆医療機関クラスターへの支援体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ◆夜の街を含むクラスター早期探知 ◆高齢者施設クラスター増加に伴う施設対策 ◆院内感染対策強化 | <ul style="list-style-type: none"> ◆学校・児童施設、企業等多様なクラスターの早期探知、把握 ◆高齢者施設等クラスター対策強化 | <ul style="list-style-type: none"> ◆クラスターにおけるアルファ株の発生動向の把握 ◆施設入所・入居者の陽性者への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ◆クラスターにおけるデルタ株の発生動向の把握 ◆施設入所・入居者の陽性者への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ◆医療機関・高齢者施設クラスター急増に伴う感染予防等体制強化 ◆施設内療養への支援体制構築 ◆施設から保健所への確実なアクセスルート確保 | <ul style="list-style-type: none"> ◆施設内療養への支援体制の構築 ◆オミクロン株の特性を踏まえた施設等における事前の備えの啓発 |
| 医療療養体制 | <ul style="list-style-type: none"> ◆感染症指定医療機関による入院体制の限界 ◆保健所を中心とする医療体制整備の限界（都道府県が整備） ◆受入におけるソフト・ハードの課題（人員確保、ゾーニング、医療資材・施設設備、感染リスク等）、経営面への影響等 ◆検査や宿泊施設での医療従事者への執務要請にかかる特措法の補償制度適用不可 ◆発熱患者の搬送困難事案発生 | <ul style="list-style-type: none"> ◆病床確保計画どおりの運用が困難（以後同様）（スタッフ確保、休日夜間の時間帯制限等） ◆医療人材の確保（以後同様） | <ul style="list-style-type: none"> ◆民間を中心とした病床確保 ◆軽症でADLが低下している患者の受入病床が不足 ◆入院患者の入院期間が長期化 ◆コロナ軽症中等症の透析患者の受入病床が不足 | <ul style="list-style-type: none"> ◆重症病床でオーバーフローが発生一般医療の一部制限 ◆保健所の療養決定の遅れと自宅待機者の増加 ◆療養決定遅延による宿泊施設への入所・搬送調整の遅れ ◆自宅・宿泊療養者の症状憎悪時に早期対応が可能な診療体制整備 ◆救急車長時間待機の発生 | <ul style="list-style-type: none"> ◆軽症中等症、妊産婦、小児病床の確保 ◆圏域ごとの患者数と受入数の偏在 ◆医療機能分化の推進 ◆初期治療体制の構築 ◆ひっ迫時に備えた保健所連絡前の医療へのアクセス確保 ◆転退院支援の強化 ◆症状急変時に備えた自宅・宿泊療養体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ◆軽症中等症、透析、妊産婦病床の確保 ◆コロナ以外の原疾患等による院内治療体制確保 ◆感染等による医療人材不足 ◆患者の高齢化に伴う入院期間の長期化・療養支援と転院先確保 ◆一般救急搬送困難事案の急増に伴う救急医療体制ひっ迫 ◆高齢者施設入所者の施設内療養に向けた治療支援体制 | <ul style="list-style-type: none"> ◆小児患者受入病床の確保 ◆医療機関等における入院対象の共有不足 ◆感染等による医療人材不足 ◆一般救急搬送困難事案の急増に伴う救急医療体制ひっ迫 ◆上限を超える宿泊療養希望増 ◆自宅療養者へのオンライン診療検査スキームの構築 ◆要介護高齢者への医療提供体制の整備（施設対策含む） |
| 物資 | <ul style="list-style-type: none"> ◆備蓄や国からの供給不足 | | | | | | |
| ワクチン | | | <ul style="list-style-type: none"> ◆医療従事者等優先接種体制構築 ◆市町村の接種体制構築（初回） | <ul style="list-style-type: none"> ◆供給量の確保及び接種計画の策定（初回） ◆医療人材の確保（初回） ◆迅速な接種体制の確保（初回） ◆高齢者への接種促進（初回） ◆副反応等の専門相談体制構築 | <ul style="list-style-type: none"> ◆若年層等への接種促進（初回） ◆供給量の確保及び接種計画の策定（3回目） ◆市町村の接種体制構築（3回目） ◆迅速な接種体制の確保（3回目） ◆初回未接種者への接種機会確保 | <ul style="list-style-type: none"> ◆若年層への接種促進（3回目） ◆高齢者への早期接種（4回目） ◆接種対象の範囲拡大（4回目） ◆新たなワクチンへの対応 | <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者への早期接種（4回目） ◆小児への接種促進 ◆新たなワクチンへの対応 |

※第八波は、第七波の課題を踏まえた取組みを進めた。第八波においては、「With コロナ体制」への転換が求められる中、令和5年5月8日付での5類感染症への位置づけ変更が行われた。